

研究テーマ名：デュロック種系統造成試験

県内のブランド豚肉の礎となる新たな種豚「ローズD-1」

研究期間：平成23年度～28年度（県費研究）

1 背景と目的

急速なグローバル化の進展による輸入豚肉との競争や国内需要の縮小が予想されるなか、国産豚肉においても産地間競争の激化が進んでおり、本県の養豚経営においても、他産地の豚肉と差別化を図ることができると豚肉生産が求められています。

このため、他産地の豚肉と差別化が可能な高品質で特徴ある豚肉生産に向けて、本県における6番目の系統豚としてデュロック種の系統造成を実施しました。

2 研究成果の概要

平成24年度から閉鎖群により一年一代で生産、選抜、交配を開始しました。系統造成は、平成28年度の第五世代を最終世代として完了し、平成28年12月に、(一社)日本養豚協会から「ローズD-1」として系統豚の認定を受けました(図1)。

系統造成の選抜形質と改良目標値は表1のとおりです。雄として長期間使えるように肢蹄の強健性についても考慮して選抜を行いました。

筋肉内脂肪含量(IMF)は、完成群で5.12%(表2)と改良目標値の5%に到達し、この高いIMFの実現により、霜降りが入る豚肉の生産が可能となりました(図2)。

3 実用化に向けた対応

「ローズD-1」の養豚農家への安定的な供給体制を整備するとともに、「ローズD-1」を活用した新たなブランド豚肉を確立できるよう行政、関係団体、生産者と検討を進めています(図3)。



図1 ローズD-1

表1 選抜形質と改良目標値

選抜形質	改良目標値
日増体量(DG)	1,000 g/day
飼料要求率(FCR)	2.90
筋肉内脂肪含量(IMF)	5.00%

表2 選抜形質の成績

	第一世代	完成群
表型値		
DG(g/day)	992	964
FCR	3.02	3.01
IMF(%)	3.85	5.12
育種価		
DG	-1	119
FCR	0.00	0.00
IMF	0.00	1.04
推定総合育種価	0.08	7.71



図2 系統造成途中世代を活用して生産した三元豚のロース肉

<新ブランド豚肉のブランドコンセプト>

- ①知名度、市場評価において、全国有名なブランドと比肩する三元豚のトップブランドを目指す。
- ②当ブランド豚の生産に取り組むことで、生産性の向上や収益性の拡大といった経営強化の実現を目指す。

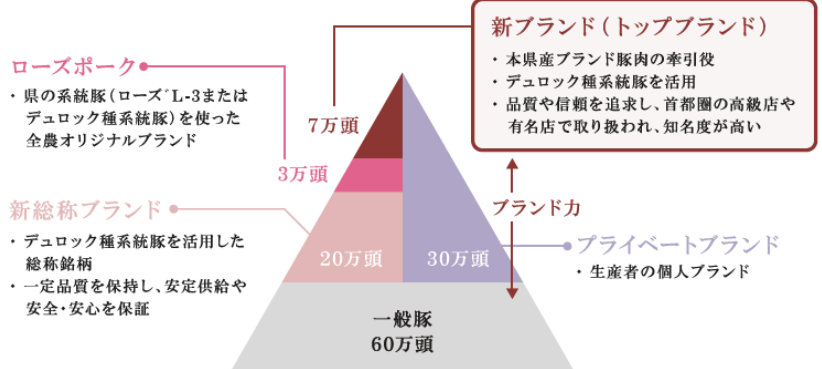


図3 本県産ブランド豚肉の展開イメージ (H37)